

住民説明会質疑概要

1. 日 時：平成27年4月4日（金） 18：30～19：50
2. 場 所：真崎コミュニティセンター
3. 質疑概要

住民) 放射性物質が漏れたというのは、どのような放射性物質が漏れたのか。また、半減期はどうか。

⇒J-PARC) 金標的が破壊されて起きたものであり、水銀や金等の広範囲な放射性物質である。半減期が短いものが多い。

住民) センター内の教育・原因対策というのは全員に行われたということでしょうか。

⇒J-PARC) まず事故については、理解するよう教育を行ってきた。また、今回の事故のことに限らず、このようなことが起こらないように教育している。

住民) 過去の話になるが、アスファルト事故の時、5年後に運転再開したが、再開の1年後に他部署で火災が発生したことがあった。機構では、原因の追究の仕方等について、徹底されていないという気持ちがある。自分の部署ではなくて良かったという意識を持つ人がいることのないよう、教育の徹底を是非お願いしたい。

⇒J-PARC) 了解した。

住民) 外部監査等を行い問題ないとのことだが、日常と外部監査というのは違うと思っている。感覚に頼るチェックマークを付けるような簡易な所がないか。その場合、形骸化されてしまい、見なくてもチェックできてしまう。対策として、数値を入れるようにしても、正常な数値を理解すると、チェックできてしまう。外部の方に監査してもらっても、そのような点は防げないと思っている。このような点をどう考えているか。全てハード面の対策でカバーできるのか。

⇒J-PARC) 全てハード面の対策で対応できるとは思ってはいない。日々職員全員が安全を考えながら業務をしていくことが重要だと考えている。チェックリストは、忘れることなくチェックしていくというものであるが、形骸化してしまうことがあり得るので、チェック項目が正しいのか、数値項目が正しいのかを日々一人一人が考えることが重要だと考えている。J-PARC としての安全の考え方について、職員だけでなく、業者等の方も含めて、丁寧に説明を行ってきた。今後も継続していき、形骸化を避けるために日々改善する気持ちを持っていくことが重要だと考えている。

住民) チェックリストをただ眺めても無駄である。品質保証部門等の人が常時現場に行く等、一つの作業について、事故の兆候を常に見極める。幹部が率先して現場に行く等の姿勢を見せることが必要だと思う。J-PARCは希望の星なので、是非頑張っていてほしい。

⇒J-PARC) 了解した。

住民) 2013年11月2日の住民説明会の答弁の中に、17m程ではないが、6mの防波堤があるとの回答があった。その後、別の方からの質問に対して、6mの防波堤があるため、津波は10mまで大丈夫だと言われた。その時、なぜ6mの防波堤で10mまでの津波が大丈夫なのか理解できなかった。後日、その件について聞いたところ、発言を忘れられているような回答があった。

⇒J-PARC) 傾斜が緩やかであるが、徐々に波のエネルギーを吸収できるように、緩やかに防潮堤が形成されており、護岸工事により常に6mの防潮堤がキープされるようになっている。

住民) 私が聞いた限りでは、盛り上がりの山のような形で、海拔6m程度の高さの防波堤であると言われた。ハード面の対策をしても、そのような間違った発言をされる姿勢・意識に対して疑問がある。

⇒J-PARC) 誤解を招く表現があったことについて、改めてお詫び申し上げます。県のハザードマップがあり、特定の高さの津波に対して、どの地域がハザードとなるかが纏められているため、そのような回答をさせていただいたものである。事故以来、安全管理・安全意識に関することについては、センター長自らが現場に出向いて作業を確認することを行っている。安全に研究施設の運営ができるよう意識を改善してきており、今回ご報告させていただいたところである。

住民) 防波堤・防潮堤を建設する予定はないのか。

⇒J-PARC) 東日本大震災の大津波の際に大丈夫であったという点はあるが、それに慢心すること無く、自治体等と相談しながら進めていきたいと考えている。現在は新たな対策について計画は無いが、今後自治体等と相談し、我々が講じることできる対策を行っていきたいと考えている。

住民) 安全監査について、大学の先生と言われたが、J-PARCの方々も学者であり、一方向な見方になってしまうのではないかと思う。民間会社等も入っていただき、新たな見方をしていただいた方がよいかと思うが、その点はどうか。

⇒J-PARC) 有識者会議では村の方にも入っていただき、地元としてのご意見をいただいております。安全巡視についても、民間で経験がある方に行っていただくなどの方法

で確認を行っている。大学や研究機関で経験を積んできた人では気づかない点が多くあることは我々も認識しており、そのように民間で経験を積んだ方々にも協力いただき、日々安全を考えているところである。

住民) なぜ2年もかかったのか。前回私は、研究だから失敗はつきものであり、どんどん研究を進めてほしいと発言した。但し、二つ条件として、第一に安全面の確保。第二に失敗した際は公開して欲しいとお願いした。公開については、一生懸命行っていたと思う。しかし、安全については、少なくとも今回のトラブルに対しての対策は行っていると思うが、想定外の事象について、本当にピックアップして検討したのか。安全面については最終的に一人一人の能力になるかと思う。研究者の方々は、研究に関しては能力が高いと思うが、放射線安全という点については、必ず全員が能力を持っているとは限らないため、研究者が安全意識に目覚める教育を行ったという証拠を見せてもらうことが一番だと思う。初めの話に戻るが、2年も経ったため早く再開して欲しい。もんじゅは20年経った今も再開していない状態である。同じような状態になってしまっただけでは困るため、事故を起こした後の対策をスピーディに行っていただきたい。そこで重要なことは、国民の意識を味方にあることである。そのためには、自分たちが研究だけでなく、安全について一人一人が説明できるような意識を持っていただきたい。これは私からの要望である。

⇒J-PARC) 2年かかった点については、これだけの大きな施設について気密を求めることは容易な作業で無かった点もあるが、我々が今回の事故の領域だけではなく、最大想定をして一つ一つ検証して対策を講じてきたためである。これで慢心すること無く、常に前進していきたいと考えている。

住民) もう少し説明を分かりやすくして欲しいと感じたことは、金に対して過剰なエネルギーを投じたために、放射性物質が施設外に漏れ出したということであるが、今日の説明で非常に厳しい条件でも耐えられるような対策をとられたと理解した。しかし色々な実験があり、それぞれグレードがあるかと思う。全部カバーして対策しているように理解したが、年次計画を示して、従来の方針でここまでの実験が可能であるが、今回の改善によって、ここまで実験可能となった。但し、これ以上の実験はできないというような説明があると理解しやすいと思う。我々は何故ここまでの対策が必要なかが理解できないため、そのような説明をしていただけると理解しやすい。

⇒J-PARC) 分かりにくい点があっても申し訳ない。今回の改善がどのようなところに有効という点を、明日も説明会があるので、説明方法を改善していきたい。

住民) 被ばくされた方々の現在の状況はどうなっているのか。また、安全人員の人数増というのは、何人から何人に増やしたのか具体的に示していただけるとイメージが持ちやすい。

⇒J-PARC) 被ばくされた方々については、事故の直後にホールボディカウンターで測定させていただいた。事故の6ヶ月後にもご足労いただき、同様の測定をさせていただき問題ないことを確認した。研究者の方々のため、各機関でも定期的に健診されている。また、数値的な問題だけではなく、心のケアとして、一人一人にご説明を行った。海外におられる方もいるが、現在は皆様健康に研究を進められている状況である。次に、安全人員の増加については、放射線安全、一般安全として約30名いる中で、事故の後に内部の異動や新規採用で8名増やしている。また、放射線監視24時間体制については、過去16名だったものを22名に増やして対策している。

住民) 先ほど、2年前の説明会時に言った言わないというお話があったが、そのようなことがあると何回説明会を行っても同じだと感じる。記録を相互で確認した方がよいと思う。

⇒J-PARC) 相互で確認するという点は重要であると思うため、意見交換を行っていきたい。事故以来、問い合わせ先を常に公開しており、いつでも皆様からご意見をいただくことのできるように対応しているため、随時ご連絡いただければと思っている。

住民) 現時点でハドロン事故と同条件の事故が起きた場合はどうなるのか。

⇒J-PARC) 標的が仮に溶けたとしても容器が完全に密封されているために、外に漏れることはない。万が一、1次ビームラインに漏れたとしても、気密強化により外に漏れることはない。公表方法についても、訓練を実施しており、迅速な対応ができると考えている。

住民) 今後外に放射性物質が漏れることは無いという理解でよいのか。

⇒J-PARC) 標的容器の中に全て閉じ込めるため、外に漏れることはない。

住民) 内部被ばくされた方の健康というのは、今後どこまでサポートしてくのか。

⇒J-PARC) 先ほどのご説明のとおり、6ヶ月までは我々の機関で健診を行った。現在は各々の機関で定期的に健診されている。

住民) 今後J-PARCから積極的に行うことはないのか。

⇒J-PARC) 今までの対応の中で、心配を持たれている方がいなかったため、要望が無い

限り、現在は積極的に行うことを考えていないが、要望があった場合は、真摯に対応していくことを考えている。

以 上